

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と関わりながら、地域の中で共に生活していくことを継続させ、日々事業所の理念を意識したケアを実践している。	法人理念、ホームの理念を掲示している。ホームの理念は2年前に職員で話し合い変更し笑顔を増やせるよう日々心がけておられ職員全員で意識付けをされケアを行っておられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の方との日々の挨拶や、会話、ゴミ出し時清掃など行っている。	法人が自治会に入会されている。ホーム前のゴミだし場所をゴミだし時に清掃している。天候が良い時期にホームの周りを散歩するときは近所の方と挨拶をする。大田市社会福祉展に作品を出展や夏祭りに参加している。地域の公民館の催し物に出かけている。ボランティアで入所者の知り合いが民謡などを披露されている。地域の婦人会の方が掃除に来てくださる。地域の保育園児が散歩のときホームの前庭まで寄られ挨拶など交流がある。宅野の保育園児とも7～8年前より交流がある。仁摩高校の生徒さんとも交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での認知症に関係する講演など情報提供している程度であるが、事業所見学等、地域の方の心配や不安なことに耳を傾け相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価報告や、取り組み状況などの話し合いを行い、意見などをサービスの向上に生かせるように努力している	2ヶ月に1回金曜日に開催されている。太田市役所高齢者福祉課、自治会長、介護相談員、家族が参加されている。入居者の状況、サービスの提供、行事などの報告。家族から意見、要望など話し合われている。会議後施設長、管理者等話し合われ職員とともにサービスに反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に市町村担当者に取り組みなどを伝え、意見を求めたり、認定調査時など支援にのけるアドバイス等を相談することもある。	大田市担当者と介護保険、改正など相談や問合せをされている。事業所の状況については、運営推進会議でお知らせするようにされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を作り、身体拘束をしないような取り組みを徹底している。一人業務時等、事業所内過ごしてもらうことはある。	併設の特別養護老人ホームの委員会の研修に参加しその後職員に伝達し周知している。建物の構造上入り口が死角になるため、安全のためホーム玄関にセンサーが付けてあるが、すぐに職員の方が対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については常日頃より研修等の勉強会で意識しており、注視を怠らないよう指導も受けており、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見人制度を利用されている方がおり、権利擁護や、成年後見人制度についての理解を深めるため、講演などへの参加を働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時等、口頭での説明を行ったうえで、利用者や家族の不安などに適切なアドバイスができるようにし、納得を得られるような対応をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族交流会などで管理者や、職員と直接話せる機会を持っており、他にも意見や苦情を言えるような窓口を設け、ケアや運営に反映させるようにしている	家族交流会を年2回開催している。交流会や面会時に管理者や職員、計画作成者に会話の中で話せる機会がある。意見や要望があった時は申し送り時に職員に伝えサービスに反映できるよう話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、全体ミーティングで意見など聞くようにしている。文書での意見提出もいあるが、言いづらいいこともあり、きちんと把握され、すべてが、反映されているとは思えない	施設長は全体ミーティングで意見を聞かれる。課長にホーム内で意見など話せる。職員の補充が喫緊の課題であるが、法人も検討しておられ早期に実現しそである。ただ意見提出が記名式であり意見、要望について遠慮がちになりやすい。毎年法人との個別面談も実施されているが、24年	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明したうえで職員への経営に関しての意識付けを図っているし、給与水準などの見直しに努め、実践し、改善に努めているが、離職により職員数が減っており、職員勤務体制が整っているとは言えず、余裕がない状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度が始まる。受けた研修に対して職員全体会議や事業所内で報告するような機会を作り、勉強し知識を共有できるようにしている。また自発的な自己啓発の研修などを奨励している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ部会に所属して勉強会や、意見交換を行う。研修時の職場実践の受け入れなどを相互に行っており、サービスの質の向上を図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことや、思いを理解するように努め、安心して生活できるような関係作りを築くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安・要望・苦情に対して理解に努め、少しでも信頼関係の改善や、構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人やご家族の思いや要望等、状況確認して、改善が図れるような支援にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることの参加を働き掛け、みんなで生活していることを伝えながら、馴染みの関係作りをしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族交流会を開催してお互いの家族や職員と関り合える場を作り、気楽に面会や外出などができるように働きかけ、ご家族と共に本人を支援するという関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす知人の面会や、来訪受け入れ、本人の生家などに出かける機会を作り、つながりを継続できるような支援をしている	入所者の知り合いの方がボランティアで民謡など披露され馴染みの関係がある。本人の生家に職員同行で出かけるなどしている。ホームの近所のスーパーで食材など買い物に行き馴染みの関係ができています。墓参りは家族が連れて行かれる。買い物や公民館催しで近所の方などと会われ挨拶	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、会話が弾みみんなが楽しく過ごせるように、時には仲介役になり、コミュニケーションを図るようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のところへ利用者と一緒に出かけることや、逆にご家族が会話をしに来られてその後の様子などをうかがい相談ごとなどを傾聴している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人から発せられる言葉や表情などから職員で話し合い、本位を考え、どのようにして支援すべきかを確認するようにしている	アセスメントにより把握している。日々の会話や表情などから希望、意向の把握し職員で話し合いケアに繋げている。困難な方は日々のケアの中からくみ取り把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	周囲の情報が少ない時は、本人や家族から今までの生活歴などを継続的に引き出すような会話や機会を作っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し、日々の言動など本人の状況や状態を確認し、職員で情報を共有してケアにつなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろのかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。日々の記録や申し送りでの気づき、ミーティングの中で職員の意見交換やカンファレンス等をしてケアを模索・検討する。	本人のケア実施時や行動、表情、家族の会話から申し送りやカンファレンスで検討され計画作成が利用者本位で作成されている。状態変化などの時計画変更も行なわれる。モニタリング、評価は毎月行われている。介護計画に沿った介護記録は概ねできている。	介護計画に沿ったサービス内容の実施記録を工夫されると良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを記録に落とし、申し送りノートを利用して、職員間で情報を共有し、実践につなげ、介護計画の見直し等につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に応じ、通院などに必要な支援に対し、臨機応変に対応してご家族の負担軽減などを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ出かけたり、地域の催し物などを把握して出かけるようにしており、利用者が地域の方とのふれあいや、会話を楽しむ機会を作っている。また、郵便物を出しに出かけたり、移動パン屋さんや、美容サービスも利用する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医の変更は勧めておらず本人や家族の希望するかかりつけ医へ受診し、必要に応じて適切な医療を受けられるように情報提供してつなげている。	本人、家族の希望されるかかりつけ医の受診、往診が行なわれている。看護師は家族、主治医に電話、FAXなどで情報を共有し適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化等に注意を払い、早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたときは、看護師に相談し、主治医につなげる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供しており、関係づくりを行っている。回復状況などを医療関係者や、家族に確認しながら情報交換しており、退院後の支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方など本人家族と話す機会を持ち、事業所のできることを説明しながら方針の共有を図り、主治医の指示等、職員全体に方針を確認し共有して支援につなげていく。	重度化、看取りの指針がある。入所時に説明をしている。現在看取りの方はいないが看取りの支援はできる。AED取り扱い、急変時の研修は行なわれている。重度化、看取りの指針は職員はいつでも見ることができる場所にあるがホームで研修は行われていない。	現在見取りの方はいないが指針に沿ってケアや死生観について研修を行い職員の向上が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急時対応などマニュアルを整備して素早い対応ができるように周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くの自治会に日頃より、緊急時の協力をお願いしている。東日本大震災後に非常災害時マニュアルを見直し、避難先を再確認していざという時にあわてずに避難誘導できるように職員間で話している。	法人に自治消防団ある。地域の自治会に協力依頼をされている。運営推進会議でも協力依頼をされている。年2回防災訓練と夜間想定訓練を行い避難方法の実施が行なわれている。備蓄は法人が確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、個々の気持ちを考えて、さりげない言葉かけや伝わりやすい言葉を心掛けている。	法人全体で接遇研修が行なわれ参加した。トイレ誘導は様子を見ながらさりげなく行なっている。トイレのドアを開けたままにしない。声かけに注意するなどプライバシーを損ねない対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が答えやすく選びやすい問いかけをして自分で決めるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちを配慮しながらの支援に心掛けている。地域でこんなことをしている等を伝え、利用者の希望・思いを確認して出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や、外出時の身だしなみには、配慮しており、相談を受けたら、鏡を見ながら一緒に考えアドバイスするときもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に利用者がそれぞれの能力に応じてできることをしていただくよう支援している。食材の切り方など、話題が膨らむ。	利用者の方に、できる力を活かし魚をさばいて頂いたり、野菜を切る、味見をする、盛り付けなどをして頂いている。配膳や下膳も御手伝いして頂いている。職員も一緒に会話を楽しみながら食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分や食事量を把握しているので、少ないときは、本人の嗜好を考慮して工夫し、個々の状態に合わせた水分補給や食事形態で摂取を勧めている。野菜中心で栄養が偏らないようにバランスを考えて献立を作るようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声がけ見守りをし、個々に合わせてうがい等により、毎食後のケアを介助するように支援して肺炎予防に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中おむつの方はいない。定期的な声掛けによるトイレ誘導をし、排泄の自立に向けた支援を行っている。また自尊心や羞恥心に配慮して身体の清潔につとめている。	チェック表を利用しながら本人に合わせた排泄支援を行っている。布パンツ使用が2名おられるので排泄のパターンを把握し少しでも長く布パンツ使用が続くよう自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便状況や水分補給量は把握しており、少ない方に、ゼリーやヨーグルトなど目先を変えて提供し摂取を促している。繊維質の食事に心掛け、職員は、身体を動かすことの大切さを常に意識して支援に結びつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは決めていないが、一人ひとりの気持ちを確認したうえでタイミングなどを考えて入浴を楽しんでもらうようにしている。	週2回、主に午前中実施。希望により午後利用の方がいる。声かけや会話をしながら入浴を楽しんでもらえるよう配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠れるように日中の活動性に配慮しているが、一人ひとりの生活リズムに合わせているので午睡される人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや処方箋のコピーを個々でわかるように整理している。職員は内容の把握ができるようになっており、服薬の確認はきちんとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しめるようなレク活動を提供し、以前に習っておられた、民謡などを披露してもらう機会を作っている。利用者さんの経験や知恵を伺って、畑作り等を一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、利用者さんの体調や、希望などを確認・考慮しながら、臨機応変に対応して外出できるよう支援している。また外出先で地域の方々の協力を仰ぐことがある	天候によりホーム周辺の散歩を行なっている。利用者と一緒に近所のスーパーに食材など買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、ご本人が安心されるのでと小銭程度を持っておられる方がおられるので、必要時には、本人に支払ってもらうような対応を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自由に電話をかけられるようにしており、ご家族よりの電話やお手紙等も取り次いでいる。また賀状等欠かさずにご家族やお世話になった方に出してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は、快適に過せる様に配慮している。利用者の作品やお便りなどを壁面の目につきやすい位置へ展示しており、季節の花なども飾り、匂いや視覚で季節感や充実感を感じていただくようにしている。	季節に合わせ手づくりの鬼の面が壁にかざってあった。日めくりの大きなカレンダーがあり生活観が取り入れられていた。居間には、天井に明り取りも有り、明るく居心地が良い場所となっていた。温度管理もされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファーや椅子を置き、気軽に腰掛けられるようにしている。和室には電気カーペットを敷いているので、横になることができ、テレビを見ながらゆったりと会話できるスペースも作っている。一人でもくつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が愛用していたものや、若いころに作られた作品・専用テレビなどご家族と相談の上、持ってきていただいている方もあり、ご本人が居心地良く過ごせるように支援している	テレビ、筆筒など愛用のものが持ち込まれている。利用者が作られた作品や写真が飾っており、居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等の場所が分かるような工夫をしている。また利用者の身体状況に応じ、手すりやテーブル等を利用しての移動・動線を意識し、危険を回避させ安全な環境へ配慮している		